



▲皆様のご利用をお待ちしています

きこり利用案内
 利用時間 午前10時～午後4時
 定休日 毎週火曜日
 ① 当面の間、村民のみ利用可。
 ② 入浴・岩盤浴・集会施設が無料でご利用いただけます。
 ※宿泊は出来ません。

きこりバスがお目見え
 昨年3月から一部再開している宿泊体験館きこりに鮮やかな緑色が目印の新型バスが入りました。車体の側面には、「きこり」の文字やあいこの沢などがデザインされています。このバスは、仮設住宅等から無料送迎を行っています。どうぞ、ご利用ください。

読んで欲しい、この1冊。

村教育委員会は、自分の好きな本を推薦する第17回読書メッセージコンテストを開催し、応募総数152通の応募がありました。その中から最優秀賞には、細杉れいみさん（飯館中1年）が書いた「アナタへの手紙」の読書メッセージが選ばれました。

村では、下記の推薦図書をはじめ、移動図書館から号で本の貸し出しを行っていますので、ぜひご利用ください。

家族への愛、感謝と謝罪の気持ち、そして思い出、全部が手紙という形になり、ぎっしりとつまっています。親、これから大人になっていく子どもたち、みんなに読んで欲しい、ぬくもりを感じる温かい本です。
 （読書メッセージより）



細杉れいみさん（飯館中1年）

読書メッセージ審査結果

最優秀賞

「アナタへの手紙」

細杉れいみ（飯館中1年）

優秀賞

「三日間の幸福」

佐藤安美（飯館中2年）

「そつだ、葉っぱを売ろう！」

伊藤稜人（相農飯館校3年）

「小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスを売らされました。」

友田美代子（一般）

JPIC賞

「君の臍臓を食べたい」

伏見 渚（飯館中3年）

「恋心」

今野愛梨（飯館中2年）

「永遠に語り継ぎたい3・11の素敵な話」

菅野千那（相農飯館校2年）

「いのちをいただく」

菅野彩七（相農飯館校2年）

「山月記」

泉田達生（一般）



（敬称略）

避難生活で見つけた「大切なもの」写真募集

村民の皆さんが震災後の避難生活の中で見つけた「大切なもの」の写真を募集します。優秀な作品を広報いいたて4月号で発表し、「大切なもの」に対する想いの「シェア・共有」を行い、これまでの避難生活を見つめ直し、復興への想いを高めることをねらいとします。この募集は、技術や芸術性を競うものではありません。村民の皆さんの「大切なもの」を教えてください。ぜひ気軽にご応募ください。スマートフォン等で撮影した写真もOKです。

- 募集期間 平成29年2月3日（金）から平成29年3月3日（金）まで
- 募集テーマ 避難生活の中で見つけた「大切なもの」の写真。例）家族・友人・ペット・モノ等
- 応募資格
 - 平成23年3月11日時点で飯館村に住民票があった方。
 - 応募作品は、応募者本人が著作権を持ち、かつ、未発表または発表予定のない作品であること。
- 応募方法 ◎1人何点でも応募できます。

【プリント作品】村役場総務課へL版または2L版サイズのプリント写真を郵送または持参ください。郵送・持参先 〒960-1892 福島県相馬郡飯館村伊丹沢伊丹沢580番地1 飯館村役場総務課企画係

◎作品1点につき1枚の応募票（広報いいたて2月号同封・村ホームページからダウンロード可能）を必ず添付してください。

【デジタル作品】メールに添付し、右のアドレスへ送付ください。iitateweb@vill.iitate.fukushima.jp

◎画像はJPEGで、データ容量は5MB以内。◎作品1点につき1通のメールで応募。それぞれに

 - タイトル●コメント●氏名（ペンネーム可）●年齢 ●電話番号（連絡先）を明記してください。
- 審査及び発表

審査…平成29年3月中旬 発表…広報いいたて4月号の紙面、村ホームページなどで発表。

※入賞者には直接連絡します。各媒体で発表する場合もあり。※電話問い合わせにはお答えできません。
- 賞 最優秀賞…1点 優秀賞…2点 ※総額2万円程度の賞品
- 留意事項
 - 応募作品の著作権が飯館村に帰属することに同意すること。
 - 飯館村が広報、PRのために応募作品を複製、印刷、展示することなどを許諾するものとします。
 - 応募いただいた作品は、複製、印刷、展示の際に作品の一部を変更させていただく場合があります。
 - 写真の被写体に人物が入る場合、当該人物の肖像権については承諾が得られたものとし、万が一、肖像権や著作権において第三者との紛争が生じた場合は、応募者の責任をもって解決すること。
 - 応募に係る一切の費用は、応募者の負担とすること。
 - 応募いただいた作品は返却することができません。ご了承ください。
 - 応募者は応募時点で募集要項に同意したものとみなします。

より詳細な内容は同封チラシをご覧ください。 問 総務課企画係（本庁☎0244-42-1613）



福島県車椅子バスケットボール連盟 村山 涼選手（深谷）

先輩として後輩に伝えたいこと
 「今、やるべきことに夢中になってほしい。」「今、興味のあることを全力でやる。」これが大切。いつ、何が起こるか誰にも分からない。だから今を精一杯生きることが大切。そして、友達を大切にしたい。

1月11日、サントリホールディングスと福島民報社主催の「アスリート・ビジットin福島」が飯館中学校仮設体育館で開催され、全校生88人が車椅子バスケットボールを体験しました。この日は、女子日本代表の北田千尋選手や村出身の村山涼選手ら7人が講師を務めました。生徒は、競技用車椅子の特徴や競技ルールを学び、シュート練習やゲームを楽しみました。体験した生徒は「手だけでシュートするのが難しい」「車椅子バスケットを応援して良かったです」と感想を話していました。



▲選手のパワーと競技のおもしろさを体験